

兵庫県神崎郡神河町における 文化遺産フィールド実習について

近藤 史昭

1. 研修のねらいと経緯

歴史学科では、学部2回生を対象とした課外プログラムである文化遺産フィールド研修を2009年度から実施してきた。実地で文化遺産の調査、保全、活用などについて学習することを目的としたプログラムであり、毎年、夏季休業を利用して、2泊3日の日程でフィールドワークをおこなっている。2016年度からは「文化遺産学フィールド実習」として大学の正規科目に組み入れ、充実をはかっている。各自、対象地域において関心を持った内容を課題として設定したうえで、事前勉強会において報告し、3日間の実地調査をおこなう。調査終了後、調査内容をレポートにまとめて報告書としたのが本稿である。

今年も、昨年に引き続き兵庫県神崎郡神河町において実習を実施した。ここでは、福本遺跡の遺物整理を本学考古学研究室が担当した縁があり、歴史学科の菱田哲郎教授が歴史文化基本構想の策定に参画してきた。また、この町は東洋史学担当井上直樹准教授の郷里でもあり、地域の文化遺産や行事にアクセスしやすいという利点もあった。このような条件のもと、文化遺産学コースの各研究室が調査を実施してきた地域であり、昨年は同地域において初めてフィールド実習を実施した。そして、今年も文化遺産調査を学ぶプログラムが、同町の教育委員会の協力を得て実施することができた。

1日目は、最初に神河町教育委員会竹国よしみ氏の説明のもと、神河町における文化財の現状や文書管理について理解を深めることができた。次に吉富区の春日神社において建造物や石造物に関する調査をおこなった。

2日目は、赤田区において聞き取り調査をおこない、当該地区において自家消費される茶について学んだ。次に大川区に所在する塚について墳長の計測などを実施した。杉区においては旧大山町役場の建造物活用に関する聞き取りや、大日祭の調査をおこなった。最後に神東郡絵図をもとに、吉富区を踏査した。

3日目は、福本区において庚申堂の建造物調査および墳丘の計測をおこなった。さらに、過去に調査・整備がおこなわれた福本遺跡を見学し、遺跡の公開・活用について考える機会を得た。さらに、比延区に所在する日吉神社において主に石造物に関する調査をおこなった。

調査後、各自が調査レポートを執筆し、PDFにまとめて神河町に提出した。本書には、こうした調査成果のうち、地域の文化遺産の保存や活用に資するものを中心に抜粋して掲載することにした。

参加者 教員：菱田哲郎・東昇・井上直樹・上杉和央・岸泰子

学生（2回生）：奥谷慎也・小泉朋大・酒向あやか・鈴木康大・田村友希・

藤澤愛・森本雅崇・安江範泰・善積沙耶子

大学院生：上井佐妃・近藤史昭

2. 主要な行程

8月27日（日）

12:40 中村区 神崎公民館で町の文化財、特に文書の整理・保存について聞き取り

15:30 吉富区 春日神社の建造物・石造物調査

8月28日（月）

8:45 赤田区 お茶についての聞き取り

11:30 大川区 塚の調査

12:00 杉区 昔ごはんとおやつの時間 楽や（旧大山町役場）において昼食及び聞き取り調査

13:30 大日祭り「大日さん」に関する調査

16:00 吉富区 神東郡絵図に関する踏査

8月29日（火）

9:00 福本区 庚申堂の調査・庚申堂古墳の調査

11:00 福本遺跡の見学

11:30 比延区 日吉神社において石造物調査

【謝辞】

実習の実施に際しては、多くの方々にお世話になった。町教育委員会の竹国よしみ様・山下かよ様、杉区区長藤原純仁様、福本区区長神田勝様、茶に関する聞き取りでお世話になった栗原はるゑ様・大仲美津子様、昔ごはんとおやつの時間楽やオーナー高橋陽子様、大日祭りの調査でお世話になった杉区の皆様をはじめ、お世話になったすべての方々に厚くお礼申しあげたい。